【124】

氏名	松本　柱
授与した学位	博　士
専攻分野の名称	医　学
学位授与番号	博乙第2975号
学位授与の日付	平成8年3月25日
学位授与の要件	博士の学位論文提出者 (学位規則第4条第2項該当)
学位論文題目	Effect of Donor Pretreatment on Graft-Versus-Host Disease (GVHD) After Rat Small-Bowel Transplantation (SBTX) (ラット小腸移植後の移植片対宿主病 (GVHD) に対するドナー前処置の効果)
論文審査委員	教授　清水　信義　教授　中山　睿一　教授　赤木　忠厚

学位論文内容の要旨

ラットの小腸移植において、移植片対宿主病(GVHD)のみが必ず起こる一方向性(unidirectional)モデルを用い、Hostの脾細胞でDonorを前感作した影響と、感作過程に抗アシアロGM1抗体(anti-ASGM1)を投与し、Donor由来のNK細胞抑制とGVHD発生の関係を検討した。さらに、前処置されたDonor脾細胞のCYTOTOXICITYの変化を検討した。小腸移植は、LEWの小腸を(LEW×WKA)F1ラットに移植した。移植14日前にF1の脾細胞で感作されたLEWの小腸を移植するとGVHDの発生は有意に促進され、生存期間も短縮する傾向にあった。皮膚GVHDの発生は全身GVHDに比べ、前感作によって強く影響を受けた。また、感作と移植の間隔が7日より14日の方が、GVHDをより促進させた。感作過程のDonorへ、移植前3日と1日に、anti-ASGM1を投与すると、促進された皮膚GVHDの発生は回復し、Hostの生存期間も改善された。この時、NK活性も抑制されており、Donor由来NK細胞のGVHD発生への関与が示唆された。

なお，本論文は共著論文であり，共著者の協力を得て完成したものである。

論文審査結果の要旨

本研究はラットの小腸移植での、移植片対宿主病(GVHD)のみが必ず起こる一方向性モデルを用いHostの脾細胞でDonorを前感作した影響と、感作過程に抗アシアロGM1抗体を投与しDonor由来のNK細胞抑制とGVHD発生の関係を、さらに前処置されたDonor脾細胞のCYTOTOXICITYの変化を検討したものである。LEWの小腸を(LEW×WKA)F1ラットに移植する14日前にF1の脾細胞で感作されたLEWの小腸を移植するとGVHDの発生は有意に促進され、生存期間も短縮する傾向で、皮膚GVHDの発生は全身GVHDに比べ、前感作の強い影響を受けた。感作と移植の間隔は7日より14日の方がGVHDをより促進させた。感作過程のDonorへ、移植前3日と1日にanti-ASGM1を投与すると、促進された皮膚GVHDの発生は回復し、Hostの生存期間も改善された。この時、NK活性も抑制され、Donor由来NK細胞のGVHD発生への関与が示唆された。

よって、本研究は博士（医学）の学位を得る資格があると認める。